

◆4月・5月の主な行事予定
 4月19日：搬入・圧搾終了
 22日：製糖終了
 5月初旬～6月初旬：チンチバック一斉防除
 5月中旬：一筆調査【全集落】
 5月13日：干ばつ対策検討会
 5月30日：さとうきび生産振興大会(JA主催)

■搬入終了(4月19日)



《於：生和糖業》

※第50期・製糖終了のごあいさつ

昨年12月8日から始まった第50期製糖は皆様ご存知の通り、概ね好成績のうちに終了しました。キビの量は当初の計画92,000tに対し91,742tとなり昨年から、1,100t近く増えました。

これもひとえに生産農家の方々が丹精込めて作られた結果であり、皆様方のご努力に敬意を表するものであります。

今期、当社は50周年を迎えます。ひとつの節目としてささやかながらお祝いをしたいと思ひます。さらに今後の50年に向けて皆でまた、サトウキビが元気に育つように、春植え、株出し促進を率先してやっていただき、サトウキビ増産に力を注いでいただけますようお願いいたします。

『生和糖業は、自然の恵みに感謝し、サトウキビから効率よく砂糖を作り、豊かな暮らしに貢献します。』の企業理念に立ち返って考え、努力してまいります。

喜界島にいつまでもサトウキビが元気に育ち、喜界島の皆さんがいつまでも元気で過ごせるように共に、一緒に、取り組んでまいりましょう。

生和糖業株式会社・代表取締役社長 赤松 幹雄



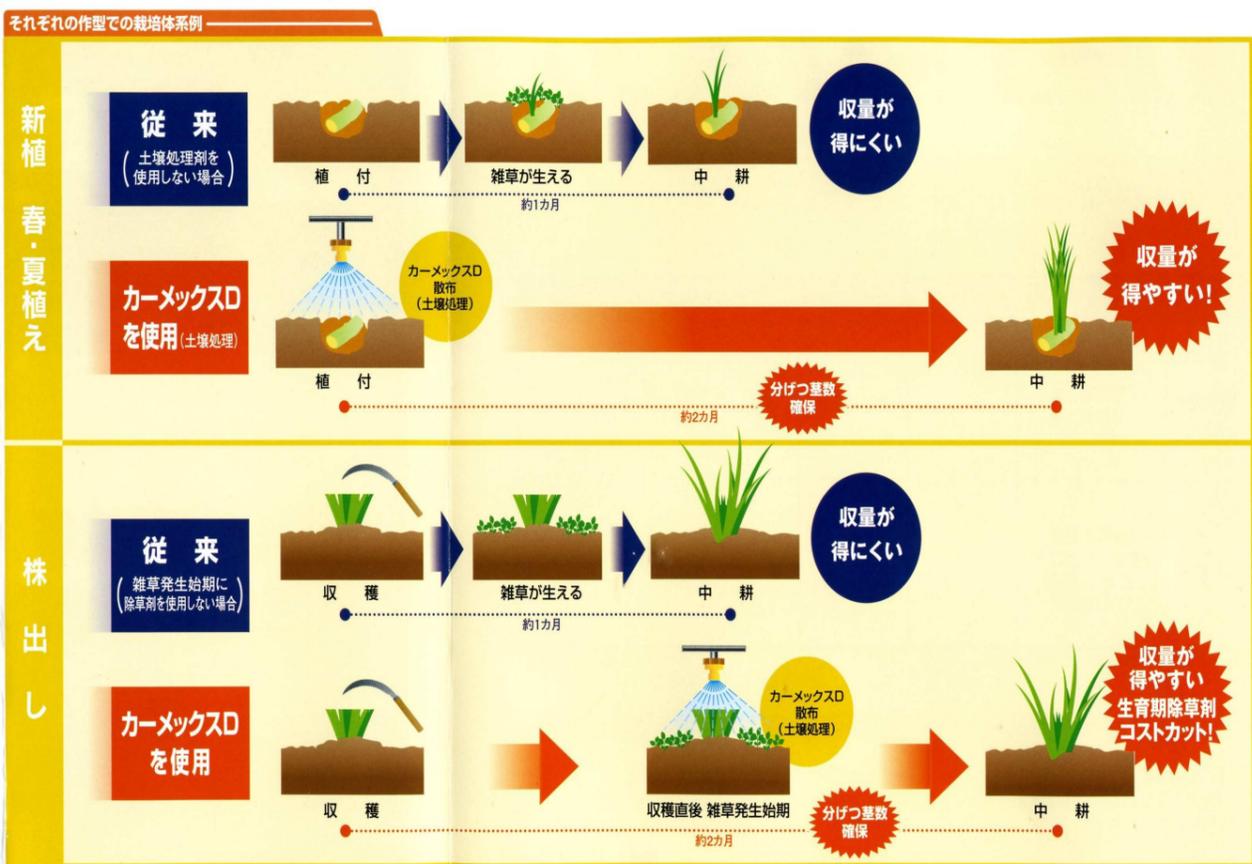
◆◆◆◆ 3年期：さとうきび収穫面積及び生産量の推移 ◆◆◆◆

【過去3年集計】	作型	夏植			秋植			春植			株出			合計		
		面積	単収	生産量	面積	単収	生産量									
		(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t									
48期	58,080	7.789	45,237	4,786	6.268	3,000	7,123	5.637	4,015	37,431	5.739	21,480	107,420	6.864	73,732	
49期	48,606	9.646	46,887	10,893	7.701	8,389	6,821	6.426	4,383	49,652	6.241	30,987	115,972	7.816	90,646	
50期	44,983	8.993	40,453	9,263	8.144	7,544	10,271	6.521	6,698	55,163	6.716	37,047	119,680	7.666	91,742	

★★★★★ 作業軽減で低コストの実現 ★★★★★

◎反収向上に効果的な土壌処理のご提案

※土壌処理：植付直後に雑草発生前に土壌表面に散布し、処理層を作って雑草の発芽を抑制若しくは死滅させる。センコル水和剤、カーメックス水和剤を散布する。 **以上の作業で約2ヶ月間は除草効果があります。**



◎土壌処理比較テスト実施圃場

：志戸桶某圃場（：4月24日撮影）
 2月27日 植付け (NiF 8)
 3月10日 土壌処理実施
 カーメックスD 100g/100L
 左側：無処理区 | 右側：処理区



◎さとうきびの主な害虫

防除時期

害虫名	1・2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	被害状況
 <p>テンチバック</p>												
 <p>ワタアブラムシ</p>												
 <p>ハリガネムシ</p>												
 <p>イネヨトウ</p>												
 <p>メイチュウ</p>												
 <p>シンクイハマキ</p>												
 <p>アオドウガネ</p>												

《注》 残留農薬の問題が懸念され、薬剤によって収穫前・出荷前の散布日数が制限されています。

灌水しましょう！



● 喜界町さとうきび生産対策協議会では灌水用にバキュームカーを、また喜界町糖業振興会では散水用動力ポンプ（消防ポンプ）を貸出しております。ぜひ、お問い合わせ下さい。
灌水をして増産・増収につなげましょう!!
 ◆ 燃料: 満タン貸出・満タン返し。 ◆ 受付順で、日数を限らせて頂きます。
 喜界町さとうきび生産対策協議会事務局（生和糖業(株)内）
 Tel 65-3133 生和糖業業務部原料係・増産担当まで
 喜界町糖業振興会事務局
 Tel 65-1456 産業振興課糖業係まで



注・意

★製糖終了以降、降雨が少なく早ばつ気味で発芽、萌芽、発育が阻害されている状況です。又、一部圃場でテンチバックの発生、ワタアブラ虫の発生等が見うけられます。灌水作業及び病害虫の防除を徹底し、併せて先手の除草・管理作業で、来年の増収につなげましょう！
 ★収穫面積も拡大されておりますが、新植（夏植え・春植え）の補植を実施し、さらに株出しの補植をも行って茎数の確保に努め、収量アップを目指しましょう！
 【生和糖業(株)喜界工場・業務部原料係】

【生和:一言コラム】 初めての1,000トン収穫 《上中・徹島正人氏(1,095t)》《花良治・大立川栄一氏(1,106t)》



◎上嘉鉄の徹島正人さんは平成14年にUターン、父親(常勝氏)の後を継ぎ就農しました。そして農業を継ぎ7年目の今期目標の1,000トン達成しました。昨年までは夏植えを中心とした作型でしたが、スプリンクラーが整備されてからは春植え、株出しの面積比率を増やして出来るだけ出費を減らしていく努力をしてきたそうです。『これまでは肥料を使い過ぎていたように思う。今年の収穫から肥料を緩行性に変え、施肥量を少なくしたが生産量、糖度とも昨年より良く、収入が増えて喜んでいるところ。昨年の燃料、肥料高騰により農家の負担は増えてきている。これからの農業はコストを下げ安定した収益を常に頭に入れて1,000トン収穫を維持しながら環境にやさしい楽々農業を目指して頑張っていきたい』と語っておられました。



◎花良治の大立川栄一さんは平成13年に文明式のHC-50のハーベスタを導入して兄弟で力をあわせ本格的にキビ作に専念して、規模拡大をし栽培面積が18ha、収穫面積13.4haを確保し、念願の目標であった1,000トン達成しました。喜びも束の間、今は収穫が終わっても息つく暇もなく、春植え植付中でした。花良治地区は灌水設備がないので春植えした圃場のかん水作業をしなければならず、灌水の設備された地区がうらやましいと、悔しげに話しておりました。これからも兄弟、力をあわせて収穫面積を確保しながら、雑草対策を徹底して常時1,000tを維持するために先手の管理作業を心がけて頑張りたいと嬉しさカミシメテおられました。

編集後記

2年連続9万トン台の生産量を達成できました。来期も収穫面積1,200ha以上の確保をめざし株出し面積も増える見込みです。喜界町、JA喜界、生和糖業では株出しに効く(培土時)プリンスベイト剤(ハリガネ虫、アオドウガネ)を助成・補助しています。春植え、株出し圃場は梅雨明け前までに早めの管理作業を行って、夏植え圃場においては緑肥(クロタラリア等)や堆肥を利用し地力増進に努め、来期もまた自然の恵みで豊作を共に喜びたいものです。例年ですと今の時期は梅雨入りだと思いますが、梅雨の気配は少なめです。早く梅雨に入って、恵みの雨を期待するところです。

【裏】

